

【国語】

次の文章を読んで、以下の問いに答えなさい。なお、※印の付いた語句には、文末に〈語句説明〉がある。

民主主義という言葉は、とくに戦後において、ひとつの魔語として流通してきた。高度大衆社会がビジネス文明の姿をとって殷賑をきわめるにつれ、民主主義は理想であることをやめて現実となりつつある。その結果、民主主義の魔力も薄らいでいるのであるが、そのぶんだけより効果的に機能するようになってきている。

政治制度の次元でみると、民主主義の内容は非制限選挙制と多数決制に尽きるといってよい。もちろん、そこには言論の自由をはじめとする様々の自由が前提されるのであるが、それらの自由がいかなる秩序に服すべきかを定めるのも普通選挙および多数決によってである、とするのが民主主義とされている。もっといえば、思想の次元における民主主義には、人間はみな潜在的能力において平等であり、またその能力は本来的に①セイゼンであるとする人間観が含まれている。したがって民主主義の中心には平等主義があり、その平等主義に接近するための手続きが普通選挙であり多数決であるとみなされているわけである。

平等主義には「機会の平等」(equal opportunity)にかんするものと「結果の平等」(equal result)にかんするものがある。後者の「結果の平等」は、しばしば悪しき平等主義に堕ちて、自己責任にもとづく自由選択の姿勢

を②阻害する。前者の「機会の平等」は自由選択と両立するとみなされているが、「機会の平等」を単なる形式にとどめず実質化しようとすると、選択能力を平等にするためにあれこれの手当てが必要になり、「結果の平等」へと近づいていく。ともかく、近代および現代における平等主義は明らかに「結果の平等」に傾いているのである。

「結果の平等」をめぐる平等主義こそが民主主義の③コンカンであるとする態度をデモクラティズム(democratism)とよぼう。デモクラシー(Democracy)という言葉は実に多義的に用いられており、それが狭隘な平等主義に④陥つている現状を的確に表わしてくれない。民主主義がまさに一個の「主義」となつて平等主義に縮退していく様子を示すには、デモクラティズムという用語の方が便利と思われるのである。大衆人の追求する民主主義はデモクラティズムであり、そこでは平等主義(egalitarianism) エガリテリアニズム)が最大限に持ち上げられているのである。

〈中略〉

日本的な文化型のひとつの柱である相互的個人主義が親近的であることも忘れるわけにはいかない。どんな集団であれ、集団内部の人間の相互関係を安定化させるためには、集団の各構成員が集団活動にすすんで参加できるような条件を整備しなければならない。つまり、公平の原則が必要である。公平がただちに平等と同じだというのではないのだが、平等志向に傾くことは否めない。

とくに公平さを数量的にだけ表現しようとすると、そのもつとも⑤簡便

な方法は「結果の平等」を前面に押し出すことなのである。日本型の文化にあつて、真に自由主義的な態度はなかなか生まれてこない。なぜなら、その態度は原子的に孤立することも恐れられないような構えがあつて、はじめてはぐくまれるものだからである。

デモクラティズムあるいはエガリテリアニズムは、それ自身のうちに大きな逆説をかかえているために、かえつて極端に及ぶ傾向がある。つまり、

A 主義が支配的イデオロギーとなると、それまでは当たり前のこととして容認されてきた小さな **B** までもが不満の種となつて不平等感が強まり、それが過激な **C** 化要求となつて現われるのである。そして、そうした要求をつらぬくには、人間は生まれながらにして **D** であるという人間観を強調しなければならなくなる。

それゆえ、大衆人は互いに均質的、標準的、平均的であるというのは正確ではない。彼らは、事実としてはほとんど均質でありながら、互いのあいだの微小な差異について過敏であり、その差異を解消しよう努めながら、なおも残る差異についてますます神経を **(d)** 尖らせるのである。その意味で、いわゆる差異化現象をうみだしている「少衆」とか「分衆」こそ、大衆人の振舞をよくなぞっているとみることができる。

平等主義が **(3)** ギセイにするのはいうまでもなく自由である。真の自由は、生得的あるいは環境的な不平等うちの少なからぬ部分を、むしろ自己の逃れたい宿命として引き受けて、その宿命のうちではなおも活力ある生を組み立てようとする力のことである。自由は秩序との相対で成り立つのであり、そ

の秩序のうちには様々の不平等が含まれている。秩序に制約されつつ抗争するという二面的な **(4)** カテイこそが自由の本質である。

大衆人の自由は秩序を欠いているために放埒^{※3}へと流れがちであり、また、まったくの放縦など想像することすら **(e)** 叶わぬ事態であつてみれば、大衆人の自由は抑圧をひそかに招き寄せもする。デモクラティズムはまさにそうした抑圧の **(5)** キコウを觀念上の体制としても制度上の仕組みとしても種々つくりだしてもいるのである。

(西部邁『大衆の病理 袋小路にたちすくむ戦後日本』)

《語句説明》

- ※1 殷賑 さかんであること。
- ※2 狭隘 せまいこと。
- ※3 放埒 勝手気ままにふるまうこと。

問一 傍線部 (a) ～ (e) の漢字の読みを書きなさい。

問二 傍線部 (1) ～ (5) のカタカナを漢字に直したとき最も適切なものをそれぞれ選択肢ア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- (1) ア 生前 イ 整然 ウ 性善 エ 凄然
- (2) ア 根管 イ 根幹 ウ 根間 エ 根冠
- (3) ア 擬制 イ 犠牲 ウ 擬勢 エ 偽性
- (4) ア 仮定 イ 課程 ウ 過程 エ 下底
- (5) ア 機構 イ 気候 ウ 紀行 エ 機甲

問三 波線部「魔語」の意味として最もふさわしくないものを選択肢ア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 大きな力をもった言葉
- イ 魅力的な言葉
- ウ 意味のある言葉
- エ 邪悪な言葉

問四 空欄 A ～ D にはそれぞれ「平等」「不平等」のどちらかがあ

てはまる。このうち「不平等」があてはまるものを一つ選び、A～Dの記号で答えなさい。

問五 本文の内容と一致しないものを選択肢ア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア デモクラティズムやエガリテリアニズムは、それら自身が大きな逆説をはらんでおり、平等主義が徹底するほどに不平等感を強めることになる。

イ 「少衆」や「分衆」は大衆人の振舞をよくなぞっているといえるが、それはデモクラティズムの人間観を押し進めた結果である。

ウ 平等主義は、秩序を失って放埒へと流れがちなもので、かえって抑圧を招くため、自由を損なうことになる。

エ 戦後日本においては民主主義も平等主義も機能していたが、やがて高度大衆化が進むとそれらは力を失い、不平等感が強まった。

問六 筆者の主張を参考にして、「自由」「平等」というキーワードを使って、民主主義についてのあなた自身の考えを八〇字以内で述べなさい。

〔国語出題 以上〕